

(様式 1)

令和元年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県中央植物園 森林政策課

2 施設所在地
富山市婦中町上轡田42

3 施設設置年度
平成5年度

4 設置目的
県民に対し植物に関する総合的な知識の普及等を行うとともに、県内の植物に関する展示等を行う施設（専門植物園等）との連携を図るため。

5 施設概要
敷地面積：244,919.61㎡
主な施設
・管理研修棟：鉄筋コンクリート造2F 1,949㎡
・サンライトホール（催し広場）：鉄筋コンクリート造平屋 1,614㎡
・ドリアスホール（多目的小ホール）：木造平屋 155㎡
・展示温室：鉄骨平屋5棟 2,839㎡
・屋外展示園：日本・世界のゾーン等 163,200㎡

6 指定管理者
公益財団法人花と緑の銀行

7 指定期間
5年
平成29年4月1日 ～ 令和4年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

H27	H28	H29	H30	R1
90,816	101,368	108,548	102,851	111,917

(2) さくらまつり入園者数（人）

H27	H28	H29	H30	R1
13,747	9,152	18,715	4,790	16,994

(3) (2)を除いた利用者数（人）

H27	H28	H29	H30	R1
77,069	92,216	89,833	98,061	94,923

(4) 利用（使用）料金収入（千円）

H27	H28	H29	H30	R1
17,879	14,538	14,306	12,993	13,713

(5) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H27	H28	H29	H30	R1
19,341	19,341	15,918	15,918	16,065

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者人数については、H30年度と比較して108.8%と増加し、4年連続で10万人を突破した。これは70歳以上無料化が周知されたことや、マスコミ報道等が主な要因と考えられる。

収入についても、H30年度と比較して増加しており、大きな要因はさくらまつり期間の入園者の増加や、暖冬等が挙げられる。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・H30年度に引き続き、大人向けの体験教室を開催。
- ・要望が多かったことから、多肉植物コーナーを常設化。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

毎週1回以上のマスコミへの情報提供など。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：インフォメーションコーナーにアンケートボックスを設置
回答者数	650人
結果	入園者の100%がまた来たいと回答した。
結果を踏まえた改善事項	講習会の参加申込みを窓口でも対応してほしいとの要望があり、窓口でも受け付けることとした。

② その他利用者の声を反映させる取組み

財団独自に第三者からなる事業評価委員会を開催して、各方面からの意見を伺い、事業運営に反映させている。

③ 主な苦情と対応

園内バスが1台しか運行しておらず、乗ることができなかった。
→バッテリーを交換し、2台とも運行できるように対応した。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

- ・富山県植物公園構想に基づく植物公園連絡協議会の事務局として、植物園スタンプラリーの実施、合同研修会の開催、情報交換を実施。
- ・14歳の挑戦、博物館実習、県職員研修、教員研修、支援学校職業体験などの研修生を受け入れている。
- ・県内の蘭協会やさつき会、クリスマスローズの会など、各種団体と連携しながら、多彩なイベントの開催に努めている。
- ・関係団体に講師等として職員の派遣や、各種委員を受託している。
- ・(公社)日本植物園協会主催の大会・総会等への参加、植物種多様性保全拠点園ネットワークへの参加をしている。
- ・国内植物園のほか、中国科学院昆明植物研究所やイギリスオックスフォード大学植物園などの海外植物園との共同研究、種子交換、文献交換を実施している。

(7) 施設・設備の維持管理

設備の定期的な点検や保守を行ったほか、経年劣化した設備、機器について、順次修繕を実施している。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

・富山県中央植物園危機管理マニュアルに基づき、園内各施設について日常点検を実施している。
・富山県中央植物園消防計画に基づき火災の予防、防災訓練を実施している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	4
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

なし

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・引き続きサービス向上や広報に力を入れるとともに、新たな魅力創りについて検討する必要がある。
・施設や設備の修繕を行い、来園者の安全性とサービス向上に努めていくことが必要である。
・第三者評価委員会で指摘のあった木製ベンチについては、美観を損ねないよう補修していただいた。